



「 初 詣 」

校 長 田 代 敏 生



新年、明けましておめでとうございます。平成29(2017)年がスタートしました。昨年は、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に対しご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。今年も、教職員一同力を合わせ、学校教育目標「溢れる英知 輝く笑顔」の実現に向けて努力してまいります。どうか、よろしくお願いたします。

さて、正月と言えば、初詣にお出かけになった方も多いのではないのでしょうか。よく初詣の参拝者数が話題となりますが、武蔵一宮である大宮の氷川神社には約200万人の方がお詣りをし、全国でもベスト10に入るとされています。ご近所にお住いのN先生のお話では、三が日はすごい混みようで、強いて言えば午前8時前であれば比較的空いているとのこと。ところで、初詣はいつ頃から始まったのか、いつ頃までにお詣りするものなのか、神社と寺院どちらにお詣りしてもいいのか、などの素朴な疑問が沸きます。少し調べてみると、古くから「年籠り」として、一家の長が新年の平安を祈って大晦日の夜から元日の朝にかけて氏神様のお社に籠って祈願する風習があり、後に、これが大晦日に詣でる「除夜詣」と元旦に詣でる「元旦詣」に分かれ、この「元旦詣」が初詣の原型になったとのこと。江戸時代には、この元旦詣は「恵方参り」と呼ばれ、その年の「恵方」にある神社に参拝していましたが、明治時代になり、交通機関の発達（鉄道会社の宣伝?）により、恵方に関係なく有名な神社や寺院に参拝するようになりました。ですから、お詣りするのは神社でも寺院どちらでも構わないようです。また、時期については、初めてお詣りするのが初詣だから何時でも構わないという方もいますが、いわゆる「松の内」までが目安なのかもしれません。さらに、お賽銭については、「5円」は「ご縁がある」、「45円」は「始終ご縁がある」としてご利益が信じられ、一方、「10円」は「遠縁」として避けられるとのこと。本当でしょうか。「初詣」、「松の内」以外にも、例えば、「お年玉」、「門松」、「お節料理」、「お屠蘇」、「お雑煮」、「鏡開き」などの言葉やその意味を調べることで、正月は日本の伝統や文化を考えるよい機会かもしれません。

ところで、新年の幕開けは、学校では同時に、学年のまとめである3学期の始まりでもあります。登校日数で言えば、1・2年生で55日、3年生は49日しかありません。しかし、とても大切な学期になります。3年生は、自分自身の力で進路を切り拓き、義務教育を卒業しなければなりません。私立高校の受験の集中日は、1月22日(日)になります。県公立高校の学力検査は3月2日(木)、発表が10日(金)、そして卒業式は15日(水)です。また、1・2年生は、それぞれ1つ上の学年へ進級するために総仕上げのまとめとともに、2年生は2泊3日の館岩自然の教室、6組は作品展やスキー教室があります。生徒一人ひとりが、それぞれ具体的な目標を持ち、この3学期を過ごして欲しいと強く願います。

最後になりますが、改めて、本校の教育活動に対するこれまで以上のご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、今年が、保護者、地域の皆様にとりまして最良の年となりますよう、心からお祈りいたします。

